

建て主も現場へ行こう

住宅の現場チェックシート



工事名 _____

自 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (_____)

至 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (_____)



一般財団法人 北海道建築指導センター

目 次

自分の目で確認しましょう	1
現場チェックシートの使い方	3
工程表	4
1 現地確認及び仮設工事	5
2 基礎工事	7
3 木工事	9
4 屋根工事	1 1
5 外部サッシ工事(窓・玄関扉)	1 2
6 断熱気密工事	1 3
7 外壁工事	1 5
8 内部建具工事	1 6
9 左官・タイル工事	1 7
1 0 塗装工事	1 8
1 1 内装工事	1 9
1 2 家具工事	2 1
1 3 仕上げユニット工事	2 3
1 4 電気工事	2 5
1 5 設備工事	2 7
1 6 シックハウス対策	2 9
1 7 外構工事	3 1
1 8 引渡し前に	3 2
参考図面	3 3

自分の目で確認しましょう

住宅を取得することは大事業です

住宅を取得することは一生のうちの一大事業の一つです。しかし、注文住宅では、実物を確認できない状態で、高額な契約を結び施工してもらうことになります。だからこそ、工事着工前の設計の打ち合わせや図面内容の確認がとても大切ですし、着工後の工事監理も重要になります。

工事監理は信頼できる建築士に依頼します

住宅の工事は、建主にとっては理解することが難しい施工内容もあります。

建築基準法には「工事監理者は建主が定める」と規定されており、工事監理は信頼できる建築士に依頼する必要があります。工事施工者の社員が工事監理をする場合も多く見られますが、施工者以外の第三者の建築士に依頼する方法もあります。

工事監理者の説明を受けながら現場を確認すると、専門的な内容の理解度が深まります。

建主にも必要なチェックがあります

安心して住宅を建てるには信頼できる建築士に監理をしてもらうだけでなく、自分で現場を見ることも必要です。

この「現場チェックシート」は、建主が現場の進行に合わせて大切な項目をチェックしたり、設計段階で依頼したことが現場できちんと実現しているか確認するのに役立つ様に編集してあります。

建主にとって重要なものとして、次のような視点が挙げられます。

- ・自分達にしか分からないこと（生活感・体調・色柄選びなど）
- ・近所付き合いに影響すること（落雪・堆雪スペース・塀の設置など）
- ・完成後に確認できない性能に関わること（構造材・断熱材・気密施工など）
- ・維持管理に関わること（分電盤・水抜栓の位置、配管経路など）
- ・現場を見て（不都合に）気がつくこと（窓の位置や高さ、仕上材の範囲など。建主の都合で工事の変更を依頼すると、請負金額の増額等が発生するのが原則です。）

これから長く住み続ける上で、現場で確認した方が良い事や、現場でしか確認できないことがあります。

出来る範囲で自分の目で確認し記録を残しましょう

建設現場が、お住まいから遠かったり、仕事の都合で時間が取れなかったりすると、なかなかこのチェックシートの全項目をチェックするのが難しいかもしれませんが、できる範囲で、住宅が完成するまでの工程を自分の目で確認し、写真やビデオの記録として残しておくといいでしょう。

設計図面が大切

打ち合わせた内容が、設計図面に反映されていると、現場での確認がしやすくなります。設計図面がきちんとしていないと、現場で確認のしようがありません。

工事監理とは

工事監理とは実際の工事状況を設計図書と照合し、それが設計図どおりに実施されているかどうかを責任を持って確認することを言います。また、工事監理をする人を工事監理者と言います。

建築基準法では、100 ㎡を超える住宅を新築する場合は、建主は建築士である工事監理者を定めなければなりません。

工事監理を施工者とは別の建築士に依頼するときは、設計の業務契約、工事請負契約のほかに工事監理業務契約を結ぶことになります。

きた住まいるサポートシステムの活用

住宅の建設においては、設計者又は施工者は施工工程ごとの現場写真などをきた住まいるサポートシステムに入力します。

入力された内容は、建主がウェブ上で見ることもできますので、現場のチェックがより確実なものとなり、記録も残すことができます。

きた住まいるサポートシステムはこちらから → <http://www.h-rireki.jp/users/login>

隣近所にあいさつしましたか？

住宅の工事にかかる前に、建主が隣近所にあいさつしなければならないというきまりはありません。しかし、入居後は地域の方と長いおつきあいになるのが一般的ですので、工事の段階から建主が隣近所の方とコミュニケーションをとることが望ましいことは言うまでもありません。

建主が適時にあいさつに回することは、建主の仕事のひとつです。

「工事現場で苦情があった時はできるかぎり施工者が矢面に立って、近所の方と建主が直接トラブルにならないようにするため、建主は工事前にあいさつに回らないでください」という建築会社もあるようですが、あいさつをするかどうかはご自身で判断しましょう。

現場チェックシートの使い方

現場チェックシートには、施工順序に沿った工事項目ごとに、現場で確認したいポイントやチェック項目をあげています。これらの前にはチェックボックス（□）を付けていますので、確認した項目にはチェックを入れましょう。各工事項目ごとに照合する図面を例示しています。

現場には、工事監理者や施工の責任者である主任技術者が、責任のある専門家として携わっています。現場の確認には、専門的な知識が必要な項目もありますので、分からないことは、専門家に確認しましょう。専門家でなければ的確に判断することが難しいことに、いたずらに悩んだり、不信感を抱くのではなく、専門家に説明してもらい、工事関係者との信頼関係を深めていけるような、現場チェックシートの使い方が理想です。

この現場チェックシートに記載されているチェック項目等は、工事に関係する専門家が必ず確認するものです。

現場で確認したい内容は、建主によって様々です。このため、この現場チェックシートには、数多くのチェック項目を記載しています。全ての項目をチェックしようとするより、無理のない範囲で、ご自身にとって大切な項目を確実にチェックするのが現実的です。

現場チェックシートに設定されているチェック項目等は、木造の在来軸組構法を中心に設定していますが、別の構造や木造でもパネル化された住宅などでは、項目が異なる場合があります。そのような場合は、各工事項目の余白にメモをとるなどして、専門家に確認しましょう。

<記載例>

6 新築気密工事 使う図面【仕上裏・平断面・縦断面】

ポイント

- ・建物の快適性に関わる大切な工事。完成後は見えなくなります
- ・施工の手続きで性能が変わります
- 断熱材が設計どおりの種類・厚さで施工されていますか
- 断熱材が隙間なく施工されていますか
- 気密フィルムが、連続して施工されていますか
- 気密フィルムの重ね合わせに部分に気密テープが貼られていますか
(重ね合わせ部分が、柱・間柱等とボード等で押さえられる場合は気密テープを省略できます)

現地確認（立会者：□工事監理者 □主任技術者 □その他：木工等）
確認日：2024年 7月 25日、7月26日、10月27日

現場の状況（参考写真）

気密断熱 気密断熱 気密断熱フィルム

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

□断熱部位・工法 ・使用材料・厚さ □床 □壁 縦断面	☒ 床断熱 ☒ 内断熱 ☒ 両面断熱 ☒ 使用材料：断熱材（グラスウール 50） ☒ 厚さ：100mm	※1 ※2
	☒ 床 ☒ 気密断熱 ☒ アクリル樹脂 ☒ その他 ☒ 使用材料 ☒ 厚さ	
	☒ 断熱 ☒ 断熱断熱のみ ☒ 両面断熱のみ ☒ 使用材料：断熱材（グラスウール 50） + 断熱材（グラスウール 50） ☒ 厚さ：100mm + 100mm	
	☒ 断熱 ☒ アクリル樹脂 ☒ その他 ☒ 使用材料：アクリル樹脂（10） ☒ 厚さ：100mm	
	☒ 断熱 ☒ 断熱断熱 ☒ 断熱断熱 ☒ 使用材料 ☒ 厚さ	※1

※1 内容に必ず記載されます。断熱と気密及び断熱と気密は、使用する材料と厚さがありますが、基本的には、どちらかを記載してください。

工程表

工事項目ごとに予定を立て、表にしたものが工事工程表です。一般的には、下のような棒チャートが多く使われています。

工程表	6月	7月	8月	9月	
仮設工事	やり方			美装	
基礎工事	土工事・鉄筋コンクリート工事				
木工事	プレカット 土台敷・建方	造作			
屋根工事		板金			
外部サッシ工事		サッシ製作 取付			
断熱気密工事			壁	屋根	
外壁工事			外壁張り		
内部建具工事				製作 取付	
左官タイル工事		土台天端均し		玄関タイル張り 基礎モルタル仕上	
塗装工事			外部	内部	
内装工事				床フローリング張り・クロス張り	
家具工事				製作 取付	
仕上ユニット工事			ユニットバス取付	キッチン取付	
電気工事		配線	配線		器具取付
設備工事	配管		配管		器具取付
外構工事					犬走り
建主が関わること △地鎮祭（着工） △上棟式 △検査 △引渡し					

着工前には

- ・設計契約（設計を施工者と別の設計事務所等に依頼する場合）
- ・工事監理契約（工事監理を施工者と別の設計事務所等に依頼する場合）
- ・工事請負契約 が、結ばれます。

工事請負契約において支払条件を3回に分けるのであれば、例えば着工時2/10・中間3/10・完了時5/10 のような設定がいいでしょう。

※ 着工前に設計が完了していることが必要です。

引渡前には

建築基準法（確認申請）による完了検査・施工会社による社内検査を受けます。

建主も、建主の目で完成した住宅を確認しましょう。

※ 確認申請（検査）が不要な地域もあります。

引渡後には

登記（表示登記・保存登記・抵当権設定登記（住宅ローンを利用する場合））をします。
工事費残金・増減額の確認をして、最終金額の支払いをします。

1 現地確認及び仮設工事

使う図面〔配置図・平面図〕

ポイント

- ・ 着工前に敷地の状況や隣地との境界を確認します
 - ☐ 敷地の場所は間違いありませんか
 - ☐ 隣地境界・道路境界は確認しましたか
- ・ やり方設置時に、建物の位置や高さの設定などを確認します
 - ☐ 隣地境界線・道路境界線からの離れは図面どおりですか
 - ☐ 道路から玄関までの高さや外階段の段数は図面どおりですか
- ・ 工事が始まると、車の出入り・駐車や騒音で近所に迷惑を掛けるので着工前に近隣に挨拶周りをしておきましょう
近隣に挨拶を実施（☐ 建主 ☐ 主任技術者 ☐ その他： ）

現地確認（立会者：☐ 工事監理者 ☐ 主任技術者 ☐ その他： ）
確認日 （ 年 月 日、 ）

現場の状況（参考写真）



敷地全景



やり方



境界杭



公設柵

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

☐ 敷地の場所 ※1	☐ OK ☐ 要確認
☐ 敷地の寸法 ※1	☐ OK ☐ 要確認 ※2
☐ 境界杭の有無	☐ OK ☐ ない箇所がある ※3 （ ☐ 問題無し ☐ 要確認）
☐ 隣地	☐ 隣の建物や塀・植栽等がはみ出していない （ ☐ 問題無し ☐ 要確認）

※1 敷地の場所や寸法は、土地の登記簿や地積測量図が根拠となります。

※2 敷地の寸法が大きく違う場合は、工事を中断して、専門業者（測量士・土地家屋調査士など）に確認してもらいましょう。

※3 境界杭のない場合は、本来入っていると思われる位置に、施工者に仮杭を設置してもらい、関係者（隣人等）の了解を得て工事を進めましょう。正式に境界杭を入れる場合は、関係者全員の立会が必要で、場合によっては事前に測量が必要です。

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

☐ 地盤高さの基準（GL）※4	☐ OK ☐ 要確認
☐ 敷地の傾斜 ※5	☐ OK ☐ 要確認
☐ GLから1階床までの高さ	☐ 外階段の段数・蹴上寸法・踏面寸法 （ ☐ OK ☐ 要確認）
☐ 建物の位置	☐ OK ☐ 要確認
☐ 宅地枳の位置	☐ OK ☐ 要確認
☐ 電気・電話の引込位置※6	☐ OK ☐ 要確認
☐ 屋外散水栓位置	☐ OK ☐ 要確認

※4 敷地は必ずしも平坦ではありません。道路と高低差がある場合もあります。GLとは建築物の高さの基準で、道路から玄関や駐車スペースまでの高さの設定に問題がないか等をチェックします。

※5 敷地の傾斜は、やり方天端から地面までの高さを測ることで、概ね確認できます。

※6 電柱などが、敷地への出入りに支障のある位置にないか、確認しておきましょう。

やり方

基礎工事前に、壁の位置・高さの基準等を確定するために、設置する仮設の木杭。水平に設置された横杭を高さの基準にします。

GL（グランドライン）

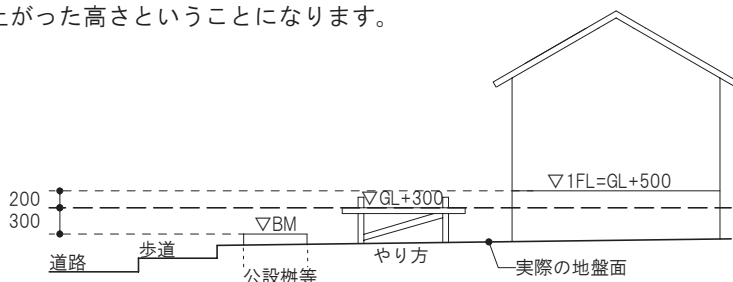
設計上の高さの基準です。

BM（ベンチマーク）

工事をする際の高さの基準点です。道路境界の縁石天端や、マンホールのふた等、工事中に動かないものの高さをBMとします。

例えば

- ・1FL（1階床仕上げの高さ）＝GL＋500
 - ・やり方天端に GL＋300
- と書かれていた場合、完成時の1FLは、やり方天端より200mm上がった高さということになります。



※ GL＝BM の場合（BMが仕上がりの地盤面の高さとなります）

2 基礎工事

使う図面〔伏図・矩計図〕

ポイント

- ・基礎は建物全体を支える重要な部位です
- ・基礎配筋や地面の下はこの時期にしかチェックできない部分です
 - ☐基礎の形状・寸法は図面どおりですか
 - ☐鉄筋がきちんと施工されていますか
 - ☐人通口・床下換気口（床断熱の場合のみ）の位置は図面どおりですか
 - ☐床下防湿シート（またはコンクリート）は施工されていますか

現地確認（立会者：☐工事監理者 ☐主任技術者 ☐その他： ）
 確認日 （ 年 月 日、 ）

現場の状況（参考写真）



基礎配筋



アンカーボルト
— ホールダウン金物



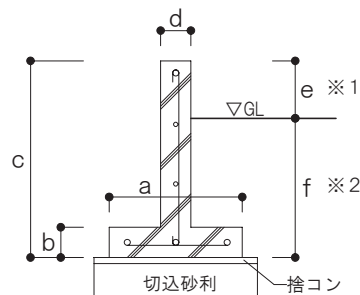
人通口



防湿コンクリート
基礎断熱

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

杭（ ☐ 有 ☐ 無） ☐ OK ☐ 要確認	長さ（ m） ☐ 断面形状（ ☐ 丸（直径 mm）） ☐ 本数（ 本） ☐ 杭頭の打設高さ
☐ 基礎の寸法 ☐ OK ☐ 要確認	☐ ベースの幅（a） ☐ 厚さ（b） ☐ 基礎の高さ（c） ☐ 布基礎の幅（d） ☐ GLからの高さ（e）※1 ☐ GLからの深さ（f）※2



- ※1 GLからの高さ（e）は300mm（長期優良住宅の場合は400mm）以上必要です。
- ※2 GLからの深さ（f）は、凍結深度以上必要です。
 札幌は600mmですが、他は建設地の所管行政庁に確認してください。

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

☐ 基礎の配筋 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 鉄筋径 ☐ 鉄筋間隔 ☐ かぶり厚さ
☐ 床下	☐ 床下防湿シート ☐ 防湿コンクリート ☐ 床下換気口（床断熱の場合のみ）
☐ 断熱材 （基礎断熱の場合）	☐ 種類 ☐ 厚さ
☐ 人通口	☐ 位置・大きさ
☐ 水抜栓	☐ 位置
☐ アンカーボルト※3	☐ 位置
☐ ホールダウン金物※4 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 位置
☐ 床下換気口※5 （床断熱の場合）	☐ 位置

※3 建物の角と、間隔2.7m以内毎に、基礎と土台を緊結するために基礎に埋設されます。

※4 基礎と柱を直接緊結するためのアンカーで、建物の角の柱には設置されることが多いです。

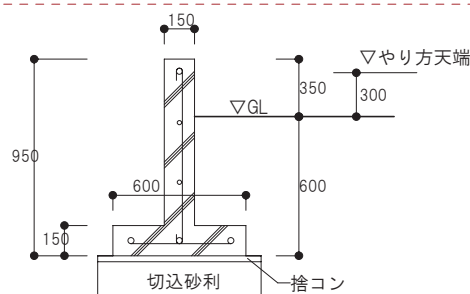
※5 床断熱の場合は、外壁の床下部分に、5m以内毎に300㎡以上の床下換気口を設ける必要があります。

かぶり厚さ

コンクリートの表面から、鉄筋の表面までの距離のことです。

例えば

- ・図面で、基礎の寸法が右図
- ・やり方天端に $GL + 300$ と書かれていた場合、現場ではGLを確認できませんので、やり方天端より50mm上がった高さが基礎天端、やり方天端より900mm下がった高さが基礎下端ということになります。



3 木工事

使う図面〔平面図・矩計図・伏図〕

ポイント

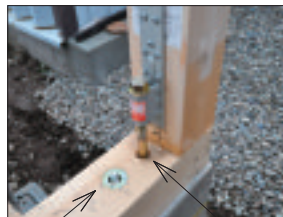
- ・ 建物の構造強度を決める重要な工事です
 - ・ 仕上がると大切なチェックポイントはほとんど見えなくなります
 - 土台が基礎とアンカーボルトで留められていますか
 - 柱が基礎とホールダウンアンカーで留められた箇所がありますか
 - 柱・筋かいの位置が図面どおりになっていますか
- （現場では、仮の斜め材を打っていますので、見間違わない様にしましょう）

現地確認（立会者：□工事監理者 □主任技術者 □その他： ）
確認日 （ 年 月 日、 ）

現場の状況（参考写真）



土台・柱



アンカーボルト
ホールダウン金物



梁



火打ち金物



筋かい



筋かい金物



構造用面材



防腐処置

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

☐ 土台 □OK □要確認	☐ 集成材 □乾燥材 ☐ アンカーボルト （□施工位置・間隔 □施工状況） ☐ 防腐処理 （□薬剤処理 □工場 □現場塗） □高耐久樹種（樹種名	））
---	--	----

☐ 柱 ※1 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 集成材 ☐ 乾燥材 ※2 ☐ 通し柱 ※3 （ ☐ 有 ☐ 無） ☐ 接合部の金物補強 （ ☐ 施工位置 ☐ 使用金物 ☐ 施工状況）
☐ 梁 ※1 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 集成材 ☐ 乾燥材 ※2 ☐ 接合部の金物補強 （ ☐ 施工位置 ☐ 使用金物 ☐ 施工状況） ☐ 火打梁（火打金物）※4 （ ☐ 施工位置 ☐ 使用金物 ☐ 施工状況）
☐ 筋かい ☐ OK ☐ 要確認	☐ 集成材 ☐ 乾燥材 ※2 ☐ 接合部の金物補強 （ ☐ 施工位置 ☐ 使用金物 ☐ 施工状況）
☐ 構造用面材 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 使用材料（ ） ☐ 位置 ☐ 施工状況（釘の種類・間隔）
☐ 柱等の防腐処理 ☐ OK ☐ 要確認	外壁で地面から1 m以内の部分の柱・筋かい・構造用面材が対象 現場処理が一般的 ☐ 施工位置
☐ 開口部（窓・扉）の位置 ☐ 壁となる部分	☐ 設計で気になっていた部分等を確認

- ※2 柱・梁及び床を構成する木材及び気密工事に使用する木材には、集成材又は含水率が20%以下の乾燥材を使用することが望ましく、北方型住宅では、これらの使用を義務付けています。
- ※3 通し柱は建物の4隅に設置されますが、金物補強をすることによる2本継ぎの柱も増えています。
- ※4 火打梁（火打金物）は、床や屋根下地に構造用合板を張ることで省略され、使用されないこともあります。

4 屋根工事

使う図面〔平面図・立面図・矩計図〕

ポイント

- ・雨水の浸入を防ぐ大切な工事です
- ・引渡後は、異常が生じた時だけ確認することが多い部位です
- 屋根下地のアスファルトルーフィングは施工されていますか
- 図面どおりの屋根の形になっていますか
- 小屋裏換気口は設置されていますか

現地確認（立会者：□工事監理者 □主任技術者 □その他： ）
 確認日（ 年 月 日、 ）

現場の状況（参考写真）



落雪屋根



無落雪屋根



スノーダクトの
ルーフトレン

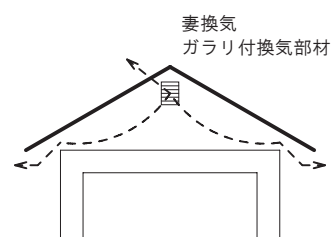
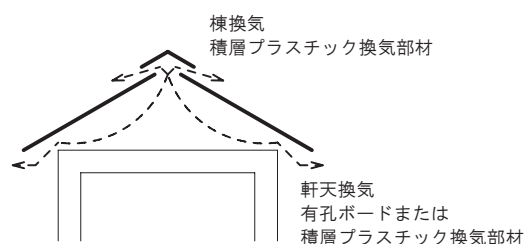


アスファルトルーフィング

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

□屋根の種類 □OK □要確認	□落雪（□落雪位置の確認） □無落雪（□横といの位置 □縦とい（ルーフトレン）の位置）
□仕上げ材の材質・工法 □OK □要確認	□金属板 □その他 □色 □葺き方（ ） □施工状況
□小屋裏換気口 □OK □要確認	□位置 □種類

小屋裏換気方法



使う図面 [平面図・立面図・建具表]

- ・ サッシまわりの防水処理を確認しましょう
- ・ 防犯性やメンテナンスのしやすさにも配慮が必要です

☐ サッシの寸法や、ガラスの透明・不透明は、
図面どおりになっていますか

☐ サッシの取り付け位置・取り付け高さは
図面どおりになっていますか

☐ 打ち合わせどおりの玄関扉が設置されていますか

☐ 窓 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類 (☐ 樹脂製 ☐ 木製 ☐ その他：) ☐ 開き方 (☐ 縦すべり出し ☐ 横すべり出し ☐ 回転 ☐ 引き違い ☐ はめ殺し ☐ その他：) ☐ ガラス (☐ 透明ガラス ☐ 型板ガラス) ☐ 大きさ・位置 ☐ 網戸 ☐ 色
☐ 玄関ドア ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類 (☐ アルミ製 ☐ 木製 ☐ その他：) ☐ 開き方 (☐ 片開き ☐ その他：) ☐ ガラス ☐ 有 (☐ 透明ガラス ☐ 型板ガラス) ☐ 無 ☐ 大きさ・位置 ☐ 色 ☐ 錠 ☐ 1ヶ所 ☐ 2ヶ所 ☐ その他 (ドアチェーン等) ☐ 付属品 ☐ 取手 ☐ ドアチェック ☐ 郵便受け ☐ その他：

6 断熱気密工事

使う図面〔仕上表・平面図・矩計図〕

ポイント

- ・建物の快適性に関わる大切な工事で、完成後は見えなくなります
- ・施工の丁寧さで性能が変わります
- 断熱材が設計どおりの種類・厚さで施工されていますか
- 断熱材が隙間なく施工されていますか
- 気密フィルムが、連続して施工されていますか
- 気密フィルムの重ね合わせに部分に気密テープが張られていますか
(重ね合わせ部分が、柱・間柱等とボード等で押さえられる場合は
気密テープを省略できます)

現地確認（立会者：□工事監理者 □主任技術者 □その他： ）
 確認日 （ 年 月 日、 ）

現場の状況（参考写真）



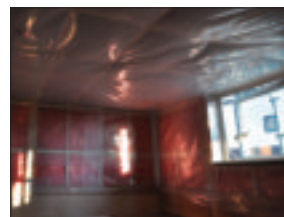
天井断熱



付加断熱



防湿気密フィルム



詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

□断熱部位・工法 ・使用材料・厚さ □OK □要確認	□基礎（□外断熱 □内断熱 □両側断熱） □使用材料： □厚さ：	※1
	□床（□充填断熱 □ブローイング □その他） □使用材料： □厚さ：	
	□外壁（□充填断熱のみ □外張断熱のみ □充填断熱＋外張断熱） □使用材料： □厚さ：	
	□天井（□ブローイング □その他） □使用材料： □厚さ：	※1
	□屋根（□充填断熱 □外張断熱） □使用材料： □厚さ：	

※1 外壁は必ず断熱されます。屋根と天井及び床と基礎は、併用するケースもありますが、基本的には、どちらかを断熱部位とします。

現場の状況（参考写真）



防風層



先張りシート



ユニットバス回り



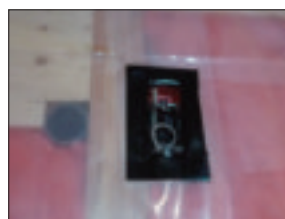
窓回り



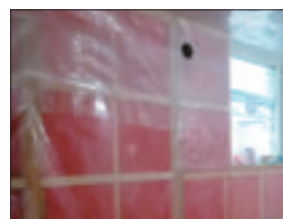
配管貫通部



配線貫通部



コンセント用気密ボックス



気密シートの重ね合わせ

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

☐ 断熱材の施工状況 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 基礎 ☐ 床 ☐ 外壁 ☐ 天井 ☐ 屋根
☐ 気密工事 ☐ OK ☐ 要確認	☐材質： ☐重ね ※2 ☐破れ ☐先張りシート ※3 ☐ユニットバス回り ※4 ☐気密処理 ☐窓周り ☐テープ処理 ☐基礎と土台の取合部分（☐使用材料： ） ☐配管・配線貫通部 ☐テープ処理 ☐スイッチ・コンセント部 ☐気密ボックス ☐テープ処理 ☐防風材（☐透湿防水シート ☐その他： ） ☐施工状況

※2 気密シートは、下地材のある部分で100mm以上重ね合わせます。

※3 納まりによっては、気密処理が必要ない場合がありますので、わからない場合は、工事監理者や主任技術者に聞いて見ましょう。

※4 ユニットバスで隠れる外壁側も、他の外壁と同様の断熱気密が施工されているかどうか、確認しましょう。

7 外壁工事

使う図面〔仕上表・立面図・矩計図〕

ポイント

- ・外壁は外見を左右する仕上げ材料です
- ・通気層は雨水の侵入や、断熱材の内部結露防止に有効です
 - 透湿防水シートが、雨水・外気が断熱層に侵入しないように施工されていますか（特に繊維系断熱材の場合に有効）
 - 通気層が縦に連続する様に施工されていますか
 - 打ち合わせどおりの色・柄の外壁材が施工されていますか

現地確認（立会者：□工事監理者 □主任技術者 □その他： ）
 確認日（ 年 月 日、 ）

現場の状況（参考写真）



透湿防水シートと通気胴縁

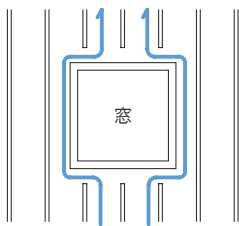
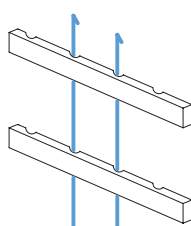


窯業系サイディング



金属系サイディング

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

☐ 透湿防水シート ☐ OK ☐ 要確認	☐ 有 ☐ 無 ☐ 使用材料：
☐ 通気層 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 有 ☐ 無 ☐ 厚さ  窓 外壁が横張の場合  外壁が縦張の場合
☐ 外装材 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（ ☐ 窯業系サイディング ☐ 金属系サイディング ☐ 樹脂サイディング ☐ タイル ☐ モルタル ☐ 塗り壁 ☐ その他： ☐ 厚さ ☐ 色・柄 ☐ 施工状況
☐ コーキング ☐ OK ☐ 要確認	☐ 使用材料： ☐ 施工状況

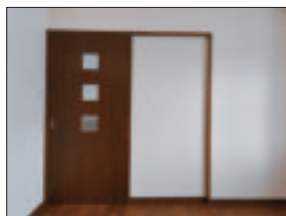
使う図面 [立面図・建具表]

- ・ 室内扉の設置工事です
- ・ 高齢化に備えて、扉の幅を広く、敷居なしによる段差解消がポイントです

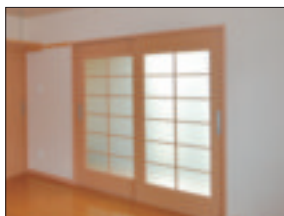
☐ 図面どおりの開き勝手になっていますか

☐ 打ち合わせどおりの色・柄になっていますか

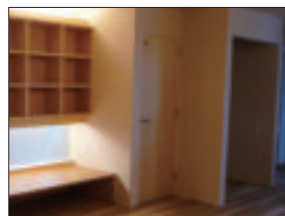
現場の状況（参考写真）



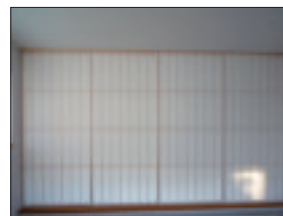
引戸



引戸



開き戸



障子

☐ 開き方 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 開き戸 ☐ 引戸 ☐ 折戸 ☐ その他
☐ 扉 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 材質 ☐ デザイン ☐ 寸法（幅・高さ） ☐ 色・柄
☐ 枠 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 材質 ☐ 色・柄 ☐ 敷居（ ☐ 有 ☐ 無） ☐ 引戸（ ☐ ハンガーレール ☐ Vレール）
☐ ガラス ☐ OK ☐ 要確認	☐ 有（ ☐ 透明 ☐ 型板） ☐ 無
☐ 鍵 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 有（箇所： ） ☐ 無
☐ 金物等 ☐ OK ☐ 要確認	☐ レバーハンドル ☐ 取手 ☐ 引手 ☐ 戸当たり ☐ 色・形

使う図面〔仕上表・平面図・立面図・展開図〕

・乾式工法（サイディング張り・ボード張りなど）が増え、減少している工事ですが、タイル張り・珪藻土塗りなどは、独特の雰囲気を生み出します

☐打ち合わせどおりの色・柄になっていますか

☐図面どおりの範囲に施工されていますか

（塗装範囲等の変更希望があれば、早めに主任技術者等に伝えて、金額の変更等の確認をしましょう）

☐ タイル ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（ ☐ 乾式タイル ☐ 湿式タイル） ☐ 厚さ ☐ 範囲 ☐ 品番 ☐ 目地（ ☐ 色） ☐ 施工状況
☐ 左官仕上げ ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（ ☐ 珪藻土 ☐ 塗り壁 ☐ その他： ） ☐ 範囲 ☐ 色 ☐ 模様 ☐ 施工状況

使う図面〔仕上表・平面図・立面図・展開図〕

- ・塗料には様々な種類（成分、透明・不透明など）があり、耐久性・耐候性・化学物質の発生量なども異なります
- ・塗装する材料(木・鉄・ボードなど)によって塗料を使い分けます
- ・色見本を作ってもらい、色を決定するといいいでしょう

☐ 図面どおりの範囲に施工されていますか

（塗装範囲等の変更希望があれば、早めに主任技術者等に伝えて、金額の変更等の確認をしましょう）

☐ 外部塗装 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類 ☐ 範囲 ☐ 色 ☐ 施工状況
☐ 内部塗装 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類 ☐ 範囲 ☐ 色 ☐ 施工状況

使う図面〔仕上表・平面図・矩計図・展開図〕

- ・ 建主の好みが最も反映される工事です
- ・ 引渡後のメンテナンスにも注意しましょう

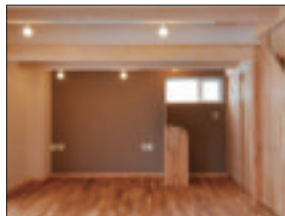
☐ 打ち合わせどおりの色・柄になっていますか

☐ 図面どおりの範囲に施工されていますか

（塗装範囲等の変更希望があれば、早めに主任技術者等に伝えて、金額の変更等の確認をしましょう）

□床材	□フローリング □OK □要確認	□種類（□合板 □無垢材） □厚さ □色・柄 □範囲
	□クッションフロア（CF） □OK □要確認	□色・柄 □範囲
	□畳 □OK □要確認	□種類 □縁の色 □範囲 □段差（□有 □無）
□巾木	□OK □要確認	□種類（□木製 □ビニール製） □高さ □色・柄 □範囲

現場の状況（参考写真）



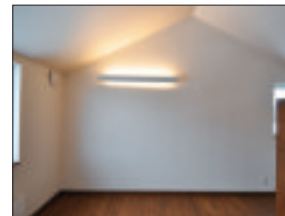
壁クロス



羽目板



天井合板

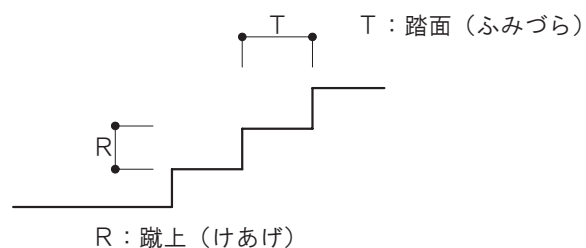


天井クロス

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

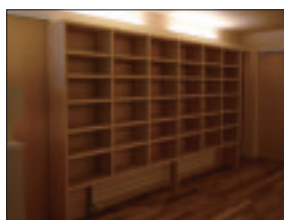
☐ 壁	☐ クロス ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（ ☐ ビニール製 ☐ 布製） ☐ 柄 ☐ 範囲
	☐ 木材 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（ ☐ 羽目板 ☐ 合板） ☐ 張り方 ☐ 材種 ☐ 範囲
	☐ 塗り壁 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（ ☐ 珪藻土 ☐ 塗料） ☐ 塗り方 ☐ 色 ☐ 範囲
☐ 天井	☐ クロス ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（ ☐ ビニール製 ☐ 布製） ☐ 柄 ☐ 範囲
	☐ 木材 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（ ☐ 羽目板 ☐ 合板） ☐ 張り方 ☐ 材種 ☐ 範囲
	☐ 吸音板 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類 ☐ 色・柄 ☐ 範囲
☐ 階段		☐ 寸法 蹴上（R）踏面（T）※1 ☐ 仕上げ（ ☐ 集成材 ☐ ジュータン ☐ その他） ☐ 手摺 （ ☐ 使用材料 ☐ 取付高さ） （ ☐ OK ☐ 要確認） ☐ 段鼻の滑り止め（ ☐ 溝 ☐ その他）

※1



使う図面 [仕上表・平面図・立面図・展開図]

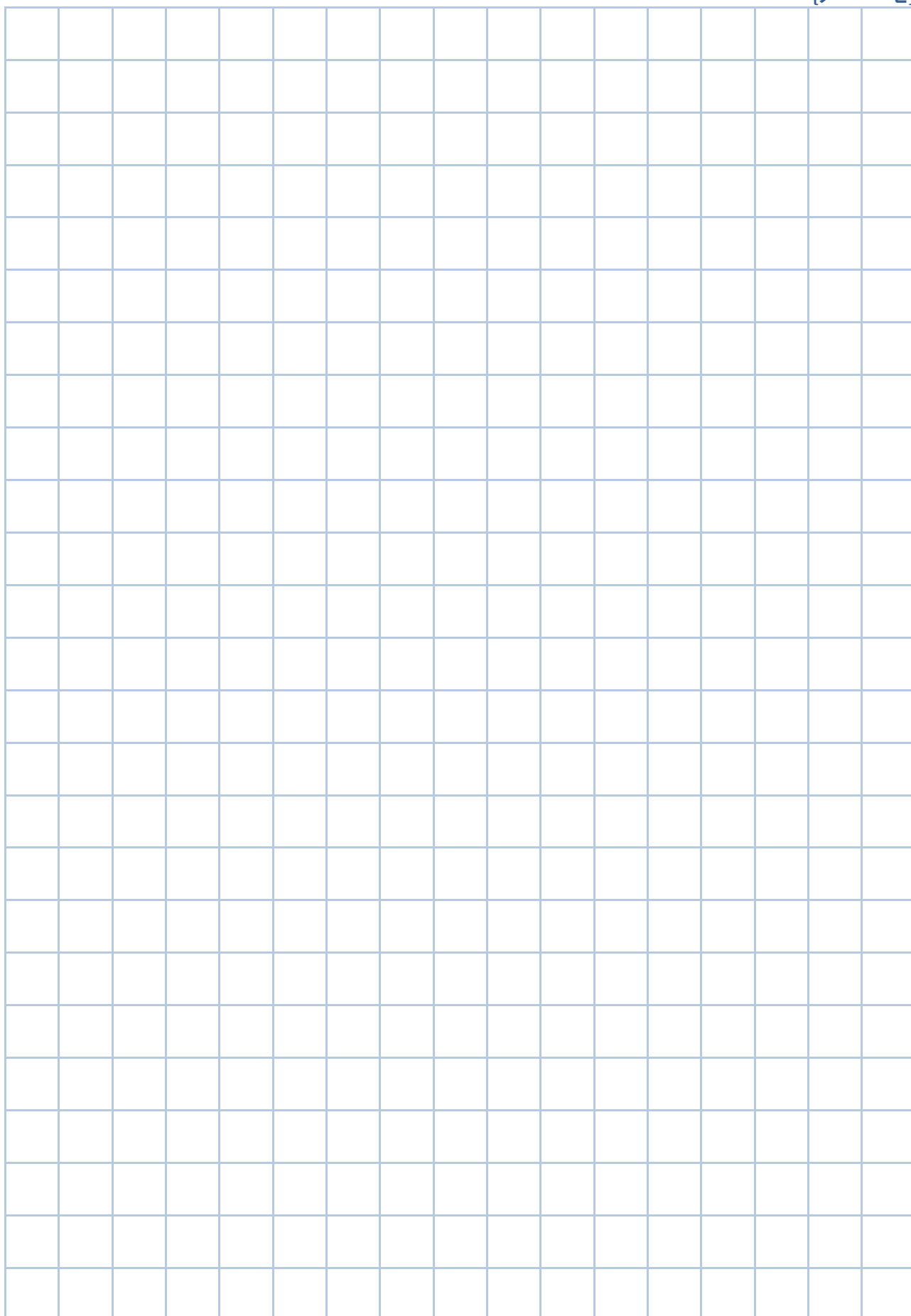
・造作家具は工場製作前に図面での細部の確認が必要です
□打ち合わせどおりに施工されていますか



☐造作家具
☐OK ☐要確認

- ☐寸法（幅・奥行・高さ）
☐材質
☐デザイン
☐扉
☐棚
☐取手（高さ・手がかり具合）
☐その他
 （☐ガラス ☐その他 ）

{メ モ}



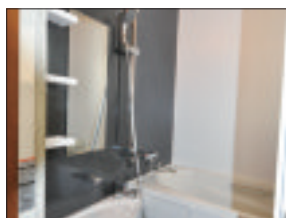
13 仕上げユニット工事 使う図面〔仕上表・平面図・立面図・展開図〕

ポイント

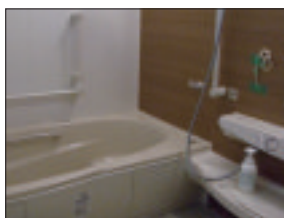
- ・既成品を選んで設置する水回り設備などの工事です
- ・雑工事とも呼びます
- 打ち合わせどおりの位置に施工されていますか
- 打ち合わせどおりの器具が施工されていますか

現地確認（立会者：□工事監理者 □主任技術者 □その他： ）
 確認日 （ 年 月 日、 ）

現場の状況（参考写真）



ユニットバス



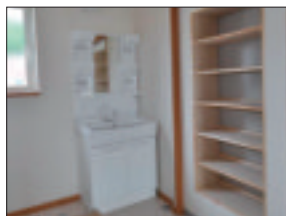
キッチン



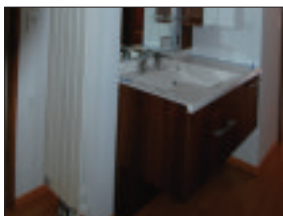
詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

☐ 風呂（ユニットバス） ☐ OK ☐ 要確認	☐ 色（浴槽・床・壁・天井） ☐ シャワー・鏡 ☐ リモコン・手摺 位置 ☐ 取付状況
☐ キッチン ☐ OK ☐ 要確認	☐ 名称（ ） ☐ 寸法（巾・高さ） ☐ 天板（□ステンレス □人工大理石） ☐ 扉 □色・柄 ☐ シンク ☐ 水栓 ☐ レンジフード ☐ 加熱機器（□ガスコンロ □IHヒーター） ☐ 収納（吊戸・下部） ☐ 取付状況

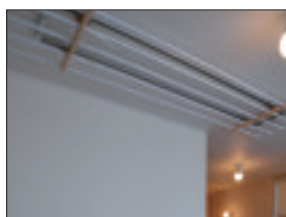
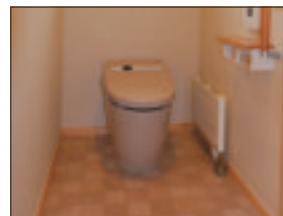
現場の状況（参考写真）



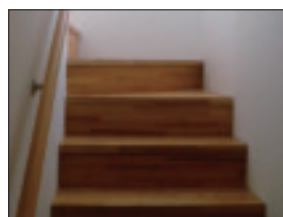
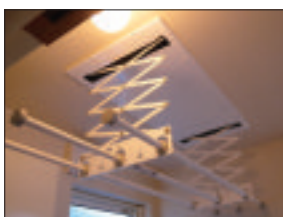
洗面化粧台



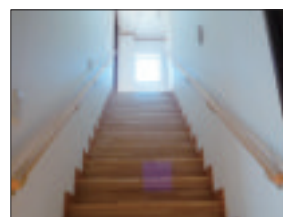
便器



洗濯物干し



階段手摺



詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

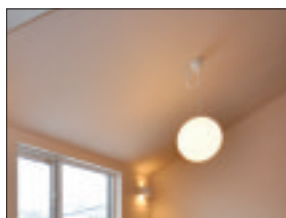
☐ 洗面化粧台 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類 ☐ 色・柄 ☐ 洗面ボール ☐ 水栓 ☐ 取付状況
☐ 便器 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（品番 ） ☐ 色 ☐ 暖房・洗浄便座 ☐ 施工状況
☐ 手摺 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（ ☐ 階段 ☐ トイレ ☐ その他（ ）） ☐ 使用材料 ☐ 設置位置 ☐ 施工状況
☐ 洗濯物干し ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（ ☐ 電動 ☐ 手動） ☐ 設置位置 ☐ 施工状況

ポイント

- ・スイッチ・コンセント・照明器具等の位置は仕上工事前に確認が必要です
- ・分電盤・メーターの位置の確認もしましょう
- 打ち合わせどおりの位置に施工されていますか
- 打ち合わせどおりの器具が施工されていますか

現地確認（立会者：□工事監理者 □主任技術者 □その他： ）
 確認日（ 年 月 日、 ）

現場の状況（参考写真）



照明器具



スイッチ・コンセント



テレビアンテナ



分電盤

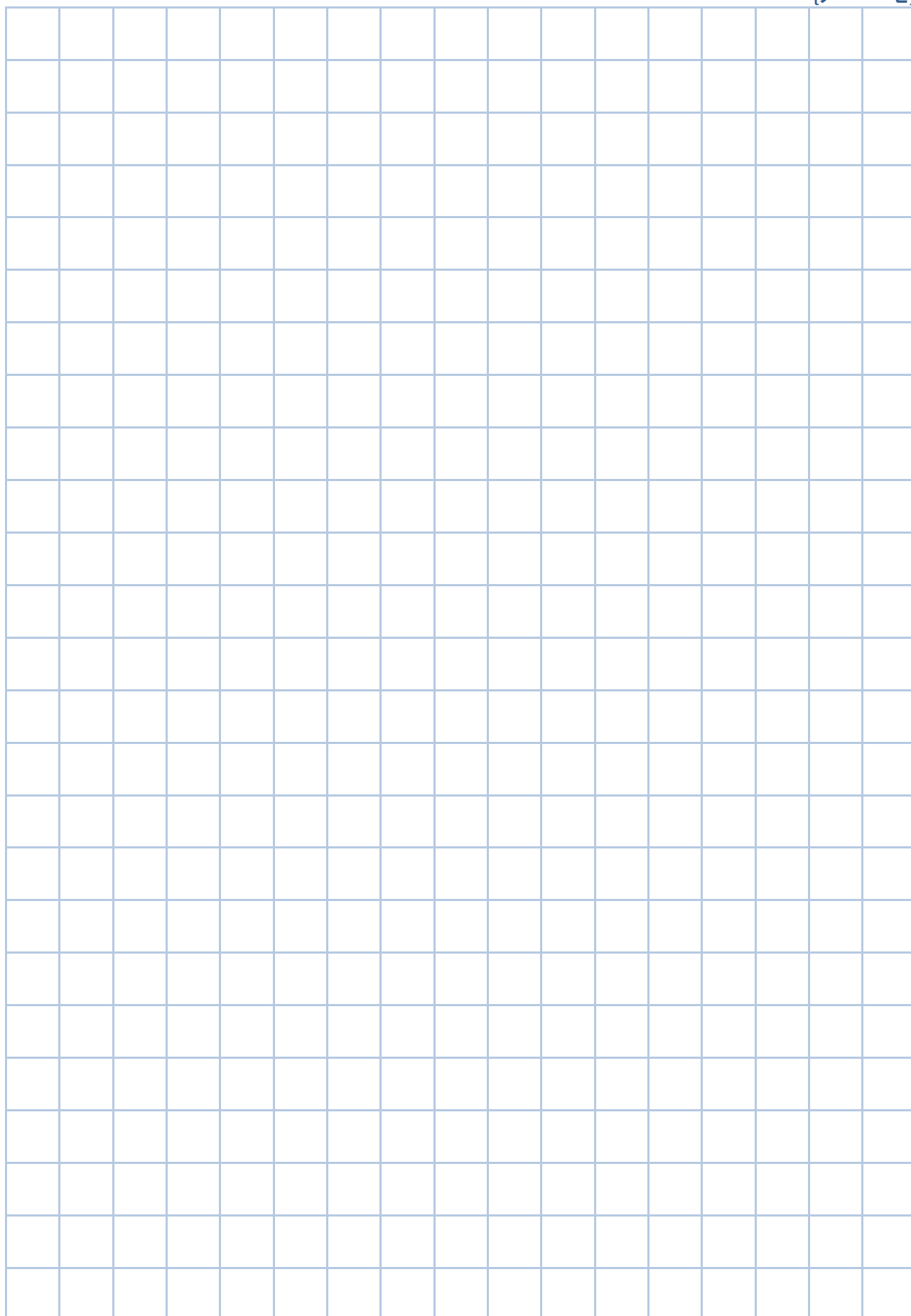
詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

□スイッチ・コンセント □OK □要確認	□設置位置 □設置高さ
□照明器具 □OK □要確認	□種類 □電球 □デザイン □センサー
□電話・インターホン □OK □要確認	□設置位置 □親機 □子機
□テレビ・アンテナ □OK □要確認	□設置位置
□メーター （電気・水道・ガス） □OK □要確認	□設置位置
□分電盤 □OK □要確認	□設置位置

スイッチ・コンセントの高さ

スイッチは床から1200～1300mm、コンセントは床から200～300mmに取り付けられていることが多く見られますが、新築の住宅では、高さを自由に設定できます。例えば、車イスや高齢者に配慮した住宅では、スイッチを床から700～1000mm、コンセントを床から400～600mm程度にする場合もあります。

{メ モ}



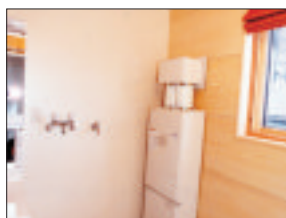
15 設備工事 使う図面〔仕上表・給排水設備図・暖房設備図・換気設備図〕

ポイント

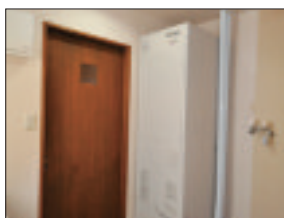
- ・メーター・水抜栓などの位置を確認しましょう
- ・点検口（天井・床下）の位置を確認しましょう
- 打ち合わせどおりの位置に施工されていますか
- 打ち合わせどおりの器具が施工されていますか

現地確認（立会者：□工事監理者 □主任技術者 □その他： ）
 確認日 （ 年 月 日、 ）

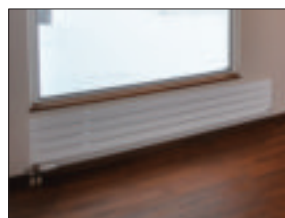
現場の状況（参考写真）



ガスボイラー



電気温水器



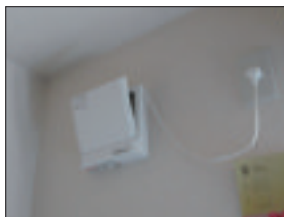
パネルヒーター



蓄熱暖房機



床暖パネル



個別換気扇



熱交換換気扇



集中換気扇

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

☐ 給湯用機器 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 熱源（ ☐ 灯油 ☐ ガス ☐ 電気） ☐ ボイラー種類 ☐ 追焚機能（ ☐ 有 ☐ 無） ☐ リモコン位置
☐ 暖房機器 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 熱源（ ☐ 灯油 ☐ ガス ☐ 電気） ☐ ボイラー種類 ☐ 放熱器種類 ☐ 設置位置
☐ 換気扇 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類 ☐ 設置位置・箇所数

現場の状況（参考写真）



フラット型水抜栓



伸縮型散水栓



水道メーター



床下点検口

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

☐ 床下点検口 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 設置位置
☐ 天井点検口 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 設置位置 ☐ 気密性
☐ 水抜栓 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 設置位置 ☐ 種類（ ☐ 電動 ☐ 立上りタイプ ☐ フラットタイプ）
☐ メーター ☐ OK ☐ 要確認	☐ 設置位置
☐ 散水栓 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 設置位置

ポイント

- ・ F☆☆☆☆ ※¹ を確認しましょう
(下地材・仕上材で対象材料があります) ※²
- ・ 建築基準法で規制されていて、確認申請書・建築完了届に記載されていますので、その内容を確認しましょう
- ・ 入居前に化学物質濃度を測定する場合は、ご自身で購入された家具を入れる前に測定されるのが良いでしょう

現地確認 (立会者: ☐ 工事監理者 ☐ 主任技術者 ☐ その他:)
 確認日 (年 月 日、)

※¹ シックハウスの原因となるホルムアルデヒドの発散量を示すマーク。
 F☆☆☆、F☆☆になるほど発散量が多い。
 F☆☆☆☆は、発散量が建築基準法の規制対象外の少なさであることの印です。

※² 合板・木質系フローリング・集成材・壁紙・接着剤・塗料など

現場の状況 (参考写真)



OSB



クロス



フローリング



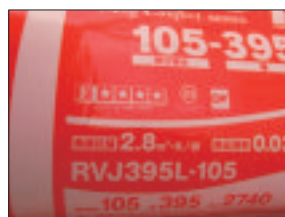
塗料



接着剤



グラスウール



グラスウール



押出法ポリスチレン板

詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

☐ 合板 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（合板・OSB） ☐ F☆☆☆☆の確認
☐ クロス ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類 ☐ F☆☆☆☆の確認
☐ 接着剤 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類 ☐ F☆☆☆☆の確認
☐ 断熱材 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（ ☐ グラスウール ☐ 発泡ポリスチレン板） ☐ F☆☆☆☆の確認
☐ 建材 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類 ☐ F☆☆☆☆の確認
☐ 塗料 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類 ☐ F☆☆☆☆の確認
☐ その他 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 種類（コーキング等） ☐ F☆☆☆☆の確認
☐ ホルムアルデヒド以外 ※3 の確認 ☐ OK ☐ 要確認	☐ トルエン ☐ キシレン ☐ その他

※3 建築基準法では、シックハウス対策として、ホルムアルデヒドを対象にしていますが、国（厚生労働省）では、ホルムアルデヒド以外の化学物質も対象としています。
 F☆☆☆☆は、ホルムアルデヒドだけに着目した表示ですので、その他の化学物質について気になる方は、別途検査が可能です。

使う図面 [配置図・平面図]

- ・工事契約内容と施工範囲を確認しましょう
- ・敷地内の排水勾配・排水経路を確認しましょう

現地確認（立会者：□工事監理者 □主任技術者 □その他： ）
 確認日（ 年 月 日、 ）

A narrow alleyway with a car on the left and a building on the right.

犬走り

☐ 犬走り ☐ OK ☐ 要確認	☐ 仕上げ種類 ☐ 厚さ ☐ 範囲
☐ アプローチ ☐ OK ☐ 要確認	☐ 仕上げ種類 ☐ 範囲 ☐ 排水勾配・排水経路
☐ 玄関ポーチ ☐ OK ☐ 要確認	☐ 仕上げ種類 ☐ 範囲
☐ 外階段 ☐ OK ☐ 要確認	☐ 仕上げ種類 ☐ 範囲 ☐ 手摺

ポイント

- ・引越し前に建主検査をしましょう
- ・設備機器の使用説明を受け、取扱説明書を受け取りましょう
- ・メンテナンス等について確認しましょう
- ・緊急連絡先の確認をしましょう
- ・確認申請書類・竣工図等を受け取りましょう

現地確認（立会者：□工事監理者 □主任技術者 □その他： ）
 確認日（ 年 月 日、 ）

現場の状況（参考写真）

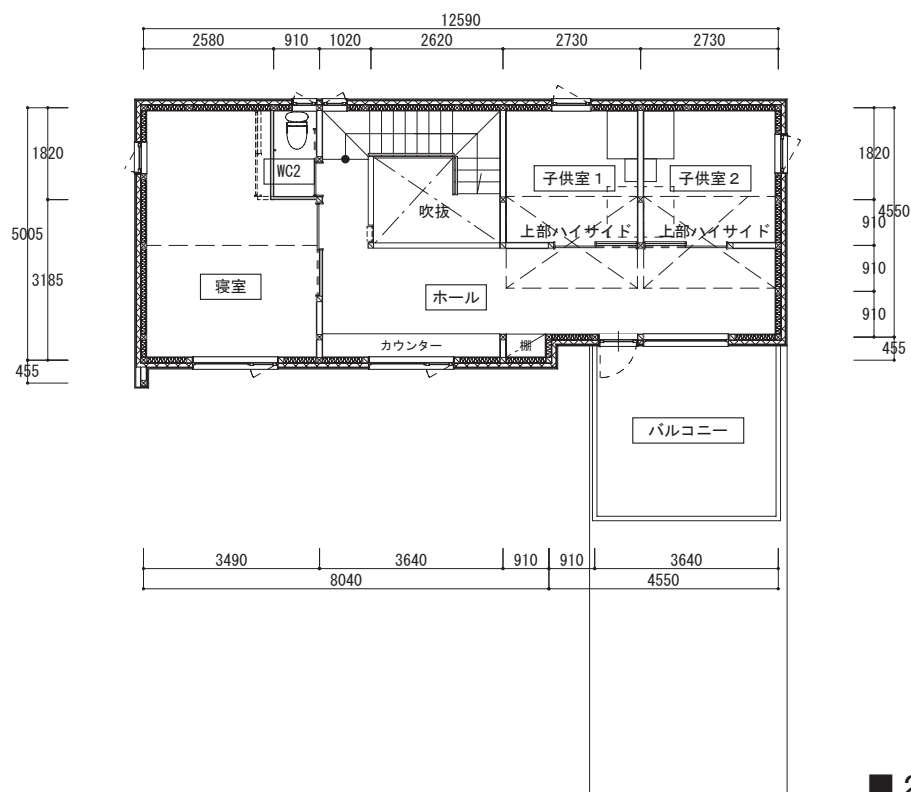


詳細チェックリスト（できる方は、チェックリストを使ってチェックしてみましょう）

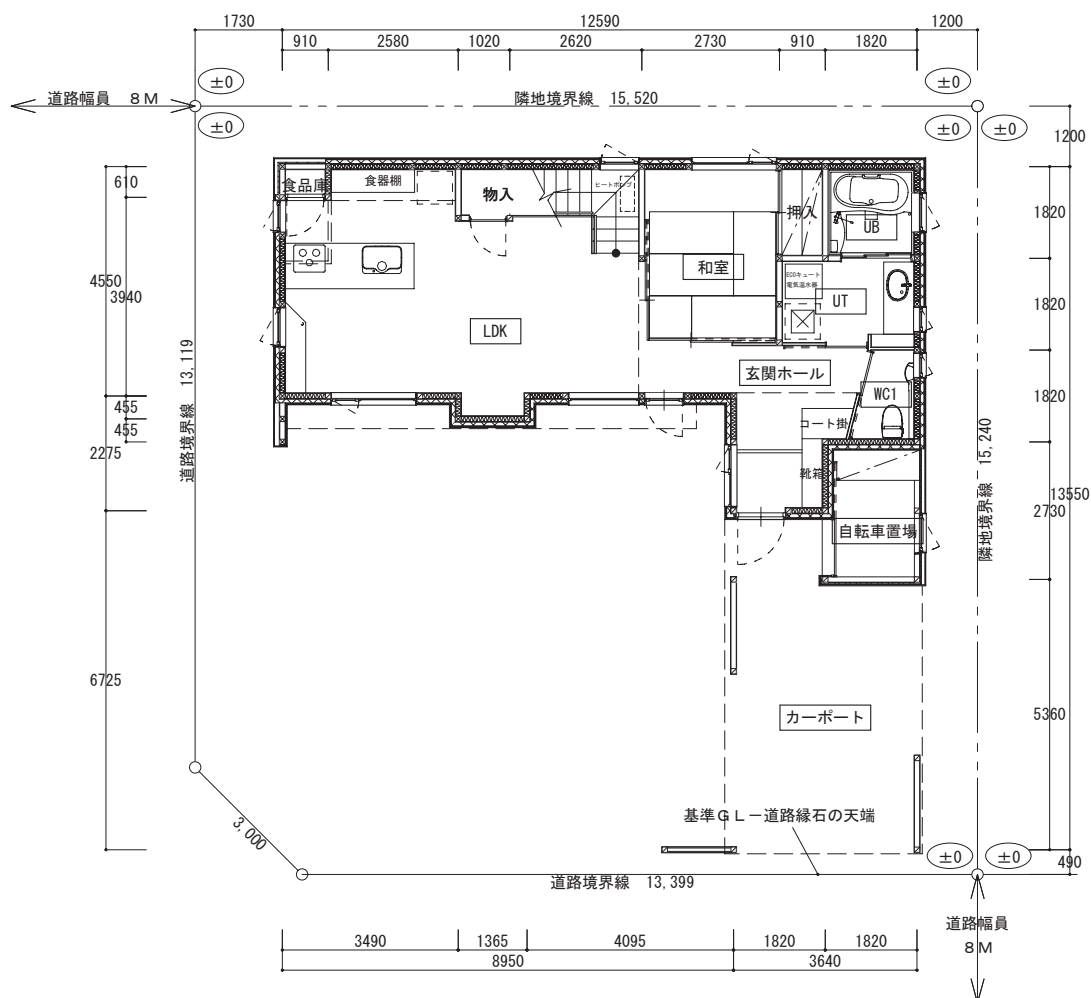
□内外装材 □OK □要確認	□気になる傷がないか
□外部サッシ・内部建具 ・造作家具 □OK □要確認	□スムーズな開閉
□設備機器の確認 □OK □要確認	□水・お湯が出るか □電気が通っているか（ドライヤー等で通電確認） □暖房機器が作動するか □キッチンコンロが作動するか □電話がつながるか（電話会社引き込み工事後に確認）
□メンテナンス等について の確認 □緊急連絡先の確認 □鍵の引渡し	

建主検査

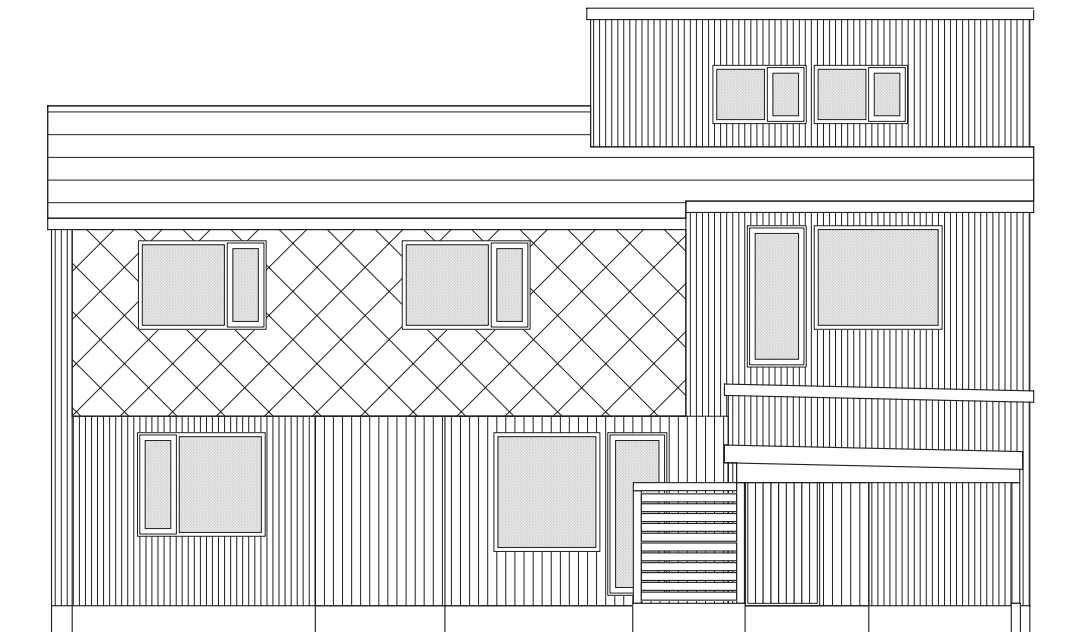
引越し前に実施することが原則です。検査で見つかった手直し箇所を一覧とし、いつまでに直すのか日程を記載してもらい、施工者印をもらおうと良いでしょう。
 また、疑問がある場合は、手直しを実施する前に手直し方法などを打ち合わせした方が良いでしょう。



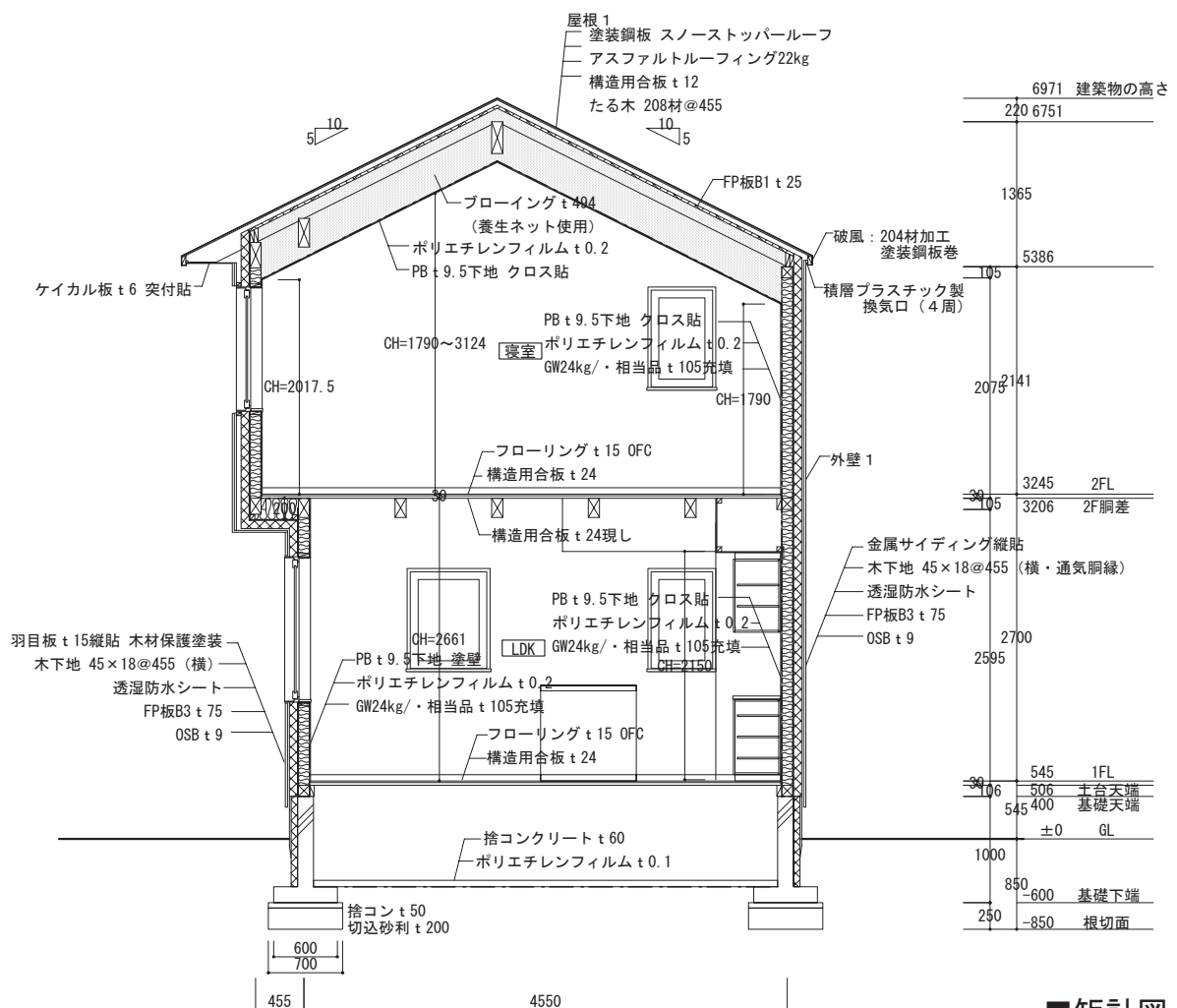
■ 2階平面図



■ 1階平面図・配置図



■立面図



■矩計図

建て主も現場へ行こう
住宅の現場チェックシート

発行 平成 25 年 2 月
増刷 平成 28 年 3 月
編集 北海道建設部住宅局建築指導課
発行 (一財)北海道建築指導センター

きた住まいるサポートシステム <http://www.h-rireki.jp/users/login>
北海道住まいの総合情報「D o 住まい」 <http://www.do-sumai.jp/>